

⑥ 可 宇 志 无	⑤ 於 也 乃	④ 可 三 也 本 止 計 也	③ 多 比 仁 於 毛 比 多 世	② 之 与 久 春 留	① 左 无 止 川
庚申 かうしん	親の御恩を おやの御おんを	神や仏や かみやほとけや	度に思ひ出せ たびにおもひだせ	食する しよくする	三度づつ きんどづつ

(本文の左の行は、それぞれのひらがなの元の漢字です)

「変体仮名」の最後の問題です。「けうくん」という資料名から、資料上部の文字例と挿絵は「教訓」であろうことが推測できるでしょう。

右の「三ミ小」には、食事をする姿が描かれています。⑤が比較的読みやすいでしょうか。「おやの御おんを」とあります。「食事」と「恩」についての教訓のようです。

この「食事」と「恩」を念頭に置いて読み進めていけば、もし、ところどころ読めない文字があっても、「三度」「食する」「思い出せ」「神」「仏」を読み解くことができるでしょう。

左の「七う小」には、馬が描かれています。「入ぬべし」とあり、また比較的読みやすい⑨は「こゝろのこまに」です。「⑦・⑧に入ることもあるでしょう。(そうならないために)心の駒に⑩しないようにしなさい。」という教訓です。⑨・⑩で自ら気持ちを引き締める必要があるとしています。

「馬」はたとえでした。こちらと同じようにして、この「馬」を念頭に置いて読み進めていけば、「引かれ」や「手綱」を読み解くことができるでしょう。

あとは⑧です。引かれて⑧に入る。⑨・⑩とあわせて考えていけば、⑧も読み解けるでしょう。

⑪ 十 方 久 連	⑩ 多 川 奈 由 留 左 寸	⑨ 己 呂 乃 己 末 仁	⑧ 入 奴 部 之	⑦ 飛 可 礼 奈
十方暮 ぐれ	手綱 緩さず たづなゆるさず	己心の駒に こゝろのこまに	入ぬべし ぬべし	引かれなバ ひかれなバ